

性器ヘルペスは、単純ヘルペスウイルス1型または2型により、水ぶくれが性器周辺や肛門の周りにできる病気で、単純ヘルペスウイルスが性的な接触により、性器に感染することで発症する性行為感染症の一つです。現在、日本では、外陰ヘルペスの患者さんがどのくらいいるのかははっきりしませんが、比較的若い世代に多く、また、女性の患者さんの方が多いとされています。今回は、性器ヘルペスについて簡単に解説してみたいと思います。

### 1 原因

単純ヘルペスウイルスが性的な接触により、性器の周りのごく小さな傷から入り込むことが原因と考えられています。このように、初めて単純ヘルペスウイルスが体内に入り込むことを初感染と言います。やがて、性器に感染した単純ヘルペスウイルスは神経を伝わり、腰仙髄神経節の神経細胞に住みつくこととなります。この状態を潜伏感染といい、単純ヘルペスウイルスが神経細胞にいるうちは症状はありません。しかし、疲れがたまったり、体力が低下すると、単純ヘルペスウイルスが神経細胞から神経を伝わって皮膚や粘膜に現れ、症状が出てきます。これが再発と言われるもので、しばしば

繰り返すことが問題となります。また、単純ヘルペスウイルスは、一度、腰仙髄神経節の神経細胞に住み着くと出ていくことのないとされる厄介なウイルスです。

### 2 症状

性的接触から2〜10日間の潜伏期の後に症状が現れます。初感染の場合、性器にかゆみや痛みを伴った水ぶくれができ、数日するとこの水ぶくれが破れ、円形の潰瘍が形成され、痛みが伴います。女性は、外陰部や陰に、男性は亀頭包皮に水ぶくれができます。発症後、約1週間で最も重症化するとされています。そのほか、発熱、だるさ、ヒリヒリ感、排尿時の痛みとして感じられることもあります。ひどい場合には、激痛から歩くことが困難になったり、足の付け根のリンパ節が腫れることもあります。再発した場合にも、初感染と同じ症状が見られますが、一般に初感染のときよりも、症状が軽い場合が多いと言われています。また、何度も再発する場合には、前兆としてごく軽い症状を感じる人もいます。

### 3 検査

検査方法は、専門の医師であれば水ぶくれを見ただけでおおよその判断がつくことが多いですが、

正確な診断のために血液検査や水ぶくれの部位を綿棒でスライドガラスに取り、単純ヘルペスウイルスがいるかどうかを調べることがあります。これらの検査は結果が出るまで時間が掛かることがあります。

### 4 治療

このような症状が現れた場合には、なるべく早い時期に女性は産婦人科に、男性は泌尿器科や内科に相談することがよいと思われる。一般的には、抗ウイルス薬と言われるウイルスの増殖を抑える薬が使われます。症状の程度やその部位により、抗ウイルス薬の飲み薬や塗り薬が使い分けられています。きちんと早期に治療を開始すれば、1週間以内に治ることが多いとされています。しかし、初感染で高熱、頭痛などの全身症状が出た場合や、性器周囲の痛みが強く、排尿が困難な場合には入院し、抗ウイルス薬の点滴治療が必要な場合があります。再発の場合でも、症状が出たり、前兆を感じたら、なるべく早期に治療を始めれば、治りがよくなります。

最後に大事なことを述べますが、性器ヘルペスは性行為感染症の一つであるため、パートナーと共に検査や治療を行うことが重要と言えます。

わたしたちの健康



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。

## 日曜・休日に実施している医療機関

午前10:00～午後4:00

月日	場所	診療所名	科目	☎(048)	場所	診療所名	科目	☎(048)									
1	朝霞	石塚医院	内・胃・循	465-1155	新座	梅沢皮フ科クリニック	皮	042-472-5118									
									8	新座	くりはら内科クリニック	内・消化器内科 循環器内科	042-438-6606	朝霞	伊藤耳鼻科クリニック	耳	486-0087
8	志木	志木ホームクリニック	内・小	487-1255	新座	新座中央通り診療所	内・小	473-3331									
									22	朝霞	所医院	内・小	463-1316	和光	萩原医院	産婦	461-2046